

様式 A-1
(FY2018)

平成 30 年 12 月 12 日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・実施責任者氏名: 茨城県立竹園高等学校 重永由起子
2. 講師氏名: Dr. Petko V. MLADENOIV
3. 講義補助者氏名: 今井 亮三
4. 実施日時: 平成 30 年 12 月 4 日 (火) 14:35~15:30
- 5.
6. 参加生徒: 2年生 65 人 (合計 65 人)
備考: 理系生物選択者全員 及び 物理選択者の一部
7. 講義題目: Genome Editing of Plants
8. 講義概要: 母国ブルガリアの紹介の後, ゲノム編集技術の原理の説明および農業分野におけるその応用例について説明していただいた。
9. 講義形式:
 - 1) 講義時間 45 分 質疑応答時間 10 分
 - 2) 講義方法 プロジェクター使用による講義
 - 3) 事前学習
 有
使用教材 高校生物の教科書及び資料集, 講師スライドを参考に本校で作成した単語リスト。
10. その他特筆すべき事項:

最先端の技術についての講義であったが, 説明スライドの一部に日本語が入れてあり, 生徒が英語で聞き取った内容を確認できるようになっていたのが良かった。英語が苦手な生徒のサポートになった。

様式 A-4
(FY2018)

サイエンス・ダイアログ アンケート(参加校の先生)

この度は、本事業へのご参加ありがとうございました。今後の本事業の運営方法等の参考とするため、下記の内容にご回答ください。

1. 本事業に参加した理由を教えてください。
(生徒に最先端の研究に触れさせるとともに、「科学の世界では道具としての英語が必要であること」を体験させるため。

事前打ち合わせについて
コミュニケーション方法を教えてください。(複数回答可)

- 1) 2回以上面談 1回面談 メール 電話
 その他()
2) 直接講師と 講義補助者を介して 高校の英語教諭の協力
 その他()

打ち合わせ内容を教えてください。
(講義(スライド)内容, 事前配布物の有無, 日本語を講座内で使用しないこと, PC などの準備物について等)

2. 生徒は、講義における英語をどの程度理解できたと思いますか？
 理解できた。 ある程度理解できた。
 あまり理解できなかった。 全く理解できなかった。

3. 講義における研究関連についての説明の難易度はいかがでしたか？
 専門性が高く、難解だった。 ちょうど良かった。
 より専門的な内容を講義してほしかった。

※難解であったのは当初の予定通りのことであり、生徒への良い刺激になった。実際に生徒アンケートでは、英語での理解度は高くなくても「科学への関心が高まった」と回答したものが多かった。

4. 事前学習は行いましたか？
 行った(具体的な内容: 分子遺伝学区の基礎)
 行わなかった

5. 今回の講義は生徒にどのような効果があったと思いますか？
最先端の研究に触れ、最先端の研究を理解するときに教科書の知識が必要であることを体験したことから、学習意欲が増した。また、研究者の共通言語としての英語を知ることができ、英語に対しても取り組む姿勢が変わった。

6. 全体として、今回の講義はいかがでしたか？
 良かった 普通 良くなかった

良かった点、良くなかった点を具体的に教えてください。
良かった点: 最先端の内容を理論だけでなく、応用面まで含めてわかりやすく、スライドで説明していただけた。質問にも熱心に答えていただけた。

7. 本事業について、お気づきの点や感想などがありましたら、お書きください。
本校では毎年利用させていただいておりますが、いつも生徒に刺激的な体験を提供することができ、とても感謝しております。ありがとうございます。来年も、ぜひ活用させていただきたいです。

8. 再度、本事業を活用したいと思いますか？

是非活用したい 機会があれば活用したい 活用したくない

*ご協力ありがとうございました。